

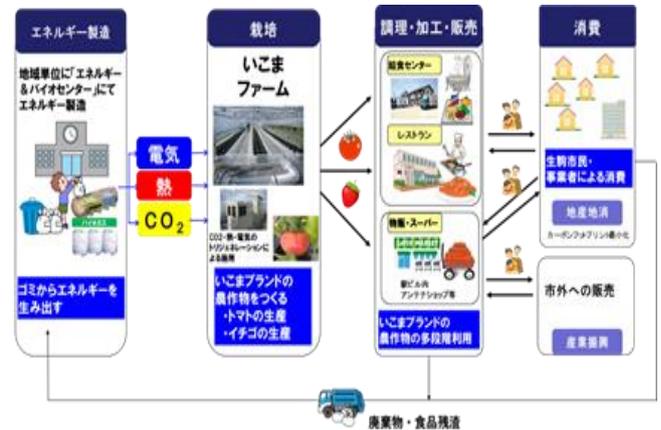
生駒市地産エネルギーを活用した「食のバリューチェーン」構築事業に関する事業化検討・調査業務報告書 (概要版)

1. 事業の目的

「食のバリューチェーン」構築事業の実現による「地産地消サイクルの確立」と「市のブランド力向上」と住みたいまちづくり」を目的として、事業化検討・調査を実施。

2. 事業概要

- ・ 生ごみを活用し、バイオマスエネルギー製造を実施
- ・ 農業施設を隣接し、エネルギー施設からの熱・電気に加え、二酸化炭素 (CO₂) も有効活用する「トリジェネレーションシステム」を実現し、農業利用を図る。
- ・ 高付加価値・高効率な都市近郊ならではの農作物栽培を実現。



生駒市の地域エネルギーを活用した「食のバリューチェーン」

3. 本業務で検討した事業のイメージ

- ・ エネルギー施設に利用するバイオマス資源は、事業系生ごみをメインとし、その他に給食センターから発生する生ごみ及び残さ、家庭系生ごみとする。(1日あたりの処理量 約5t)
- ・ 地域ニーズに沿ったミニ野菜・ベビー野菜を「いこまチビこま野菜」として販売することとし、農業用ハウスを設けて作物を栽培する。
- ・ 地域の6次産業化に向けて小規模な加工施設を備え、例えばミニ野菜ピクルスなどを製造・販売する。

4. 事業化への課題

① 初期投資コストの問題

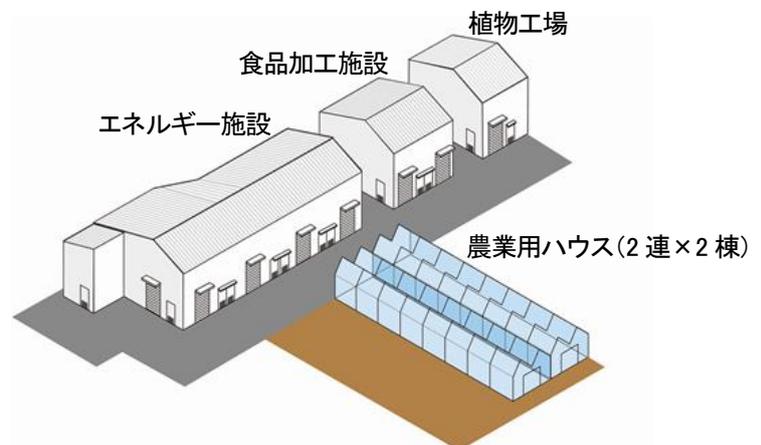
エネルギー施設及び農業施設整備費として、概算で約8億円（うち4億円は国補助を活用可）と試算されることから、事業の収益性も踏まえて精査が必要。

② 消化液処理の問題

バイオマス発電の過程において発生する消化液の処理方法及び処理コストによる運営費の圧迫。

5. 事業化の可能性

- ・ 施設整備においては、国補助を活用し初期投資コストの軽減を図るとともに、消化液についても農業利用等を図ることにより処理コストを軽減する。
- ・ またバイオマス資源となる生ごみについては、廃棄物処理料金を徴収することにより、収支が改善され事業の継続可能性が向上する。
- ・ 上記の課題等を踏まえ、事業可能性の向上に向けた検討が必要。



施設イメージ図